

会員数 59名
欠席者

出席者42名・欠席者14名・免除会員7名

麻田・藤井・後藤・和泉享・松村・松山・加内・林・中野昌・飯間
東原・神余・大山・曾川-会員

前々回出席率 71.4% (8/18)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 和泉 清憲
幹 事 細谷 誠
会報委員長 大西 信亮

お知らせ

9月のプログラム

- 1 (No.1)-クラブフォーラム
- 8 (No.2)-クラブフォーラム
- 15 (No.3)-米山奨学生卓話
- 22 (No.4)-客話
- 29 (No.5)-10/1へ例会変更

ニコニコBOX;

祝誕生月
夏見君
久しぶりに100%となって
横田君
コロナで多忙で長期休みました
中野君
発表を終えて
齋賀君

<ニコニコ会計累積/¥107,000>

がんばるBOX;

長い夏休みを終えて
横田君

<がんばる会計累積/¥56,000>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長挨拶

一昨日、京セラやKDDIの元となる第二電電を創業された稲盛会長が亡くなりました。27歳で起業をし、2兆円企業を作り上げたのは、本当に信じられないことです。また、2010年に経営破綻したJAL再建の立役者となったことも印象に残っています。私自身は理工系大学に行っていましたので、当時でも京セラは就職先の企業として憧れの的でした。個人的には「動機善なりや、私心なかりしか(人間にとってそれは正しいことなのか?)」と常に自問し、それを貫いたことについてその偉大さを感じさせられます。50人ほどの会社でさえ自分の考えを全ての社員に浸透させるのは並大抵ではなく、JALのような企業でそれをやり遂げたことは想像もつかないことです。ロータリーにはロータリアンの行動基準として「4つのテスト」があります。皆さんはどうでしょうか?どこか似た印象を受ける方もおられるのではないのでしょうか。

改めて稲盛さんのオフィシャルサイトを見てみましたが、

・利他の心を判断基準にする ・公私のけじめを大切にする ・フェアプレイ精神を貫くなどの印象的な言葉が並びます。

もう一つ稲盛さんが残した経営管理手法として「アメーバ経営」というものがあります。もちろんほとんどの方がご存じだとは思いますが、携わる人員を10名以下で細分化して、そのグループ毎に労働時間当たりの収益を目標を定めて高めていくという手法です。時間あたり収益を高めるには、分子側の経費を下げるか分母側の労働時間を縮めるか、ということになります。コンピュータのソフトでもこれを真似て作成する依頼を受けたことがあります。社内でも議論しコンセンサスを得た目標値であればまだしも、コンサルタントなどが持ち込む同業他社を参考にした目標値などを採用してしまうと、社員はその意味を理解せずに押し付けられることとなります。それに何より社内受発注や経費の細分化のせいで事務量が大幅に増加し、本来なすべき以外の事務仕事が増えてしまい労働生産性の低下を招いてしまうことがあり、一朝一夕に出来るものではないです。あくまで社員の方々に考え方を浸透させ、意識改革が並行して行われないと難しいと思いますので、もしアメーバ経営を目指している方がおられましたら、参考にしてください。

■理事会報告

①10月、11月のプログラムについて

10月13日に予定している観月会については、9月22日を日処に会長、幹事に一任。

②夏見GNを囲んでの会合の開催について

入会年次の浅い会員や昭和50年代生まれの会員など、小グループ毎に夏見GNを囲んでの会合を開催します。親睦の他、RIの考え方や2年後の夏見ガバナーの方針などを理解することを目的とする。

③四国八十八カ所ポリオ根絶祈願について

全国的なロータリーの活動として「ポリオ根絶のイベント」を実施。第2670地区では、標記の「四国八十八カ所ポリオ根絶祈願」を実施する。当クラブでは10月23日(日)10時より77番札所・道隆寺にて実施予定。(10/27の例会変更とする)

■例会事業;クラブフォーラム;ロータリー情報委員会 齋賀委員長

私たち丸亀ロータリークラブは設立60周年を迎えます。今回お話しさせて頂くのは、時を同じくして60周年を迎える「少女の家」についてです。

戦後間もない頃、高松少年審判所が丸亀市に置かれた時、「子どもをよくする会」が発足されました。その頃の丸亀の街では各地から戦災孤児が集まり、駅周辺のベンチなどで飢えと寒さに耐え続け生活をしていただようであります。



この様な、不幸な子どもたちへの救済に立ち上がったのが三原スエさん(島根県益田市出身)でした。街で見かけた少女たちを自宅へ引取り、保護の手を差し伸べていたのです。

その情熱はやがて「子どもをよくする会」を動かし、丸亀城内の旧軍用地とその建物を受け、恵まれない少女たちの為の愛の施設「少女の家」が実現したのです。後に、「少女の家」は私設(民間)から国立(官)の運営となり現在の中津海岸への移転となります。「愛は理解なりー」が口癖であったスエさん・・・その泣き笑い人生は18年間にも及び、700名以上の少女たちと苦楽を共にしたとの事です。

私自身感じることは、強い意志を持って民間(人)が主体的に起こした事案が、後に「官」が継承した稀な事例です。この構造が広がれば皆、自身の行動・言動により積極的になるであろうと考えます。

私たち、丸亀ロータリークラブに於いても同様に今後とも自らが考案し、社会からの賛同を頂いていくことが理想の形であろうかと思えます。

先ずは、第一歩を踏み出す情熱と勇気が肝心であり、一人でも多くの方に共感して頂けるよう心掛けていきたいものです。

■会員自己紹介

伊藤忠彦(いとうただひこ)会員

会社名 株式会社伊藤スイミングスクール

会社案内 スイミングスクール、スポーツクラブ経営

私の夢、やりたいこと

自分で室内プールを造り、オリンピック選手を育てることが

夢だった。伊藤スイミングスクール坂出校出身の花車優選手が世界水泳200M平泳ぎで銀メダルを獲得した。

2年後のパリ五輪が楽しみである。私の夢はもうすぐ叶う。

